SDGs新聞　西日本旅客鉄道株式会社

お客さまを安全に運ぶために

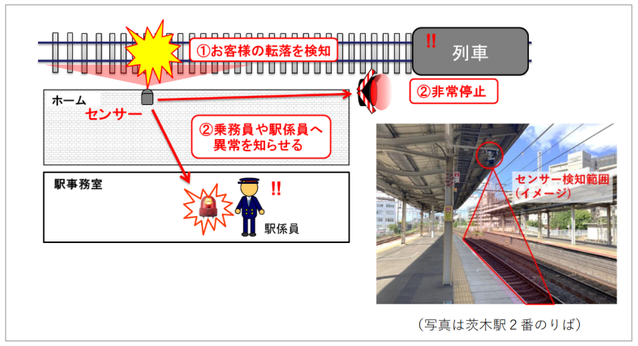
SDGsラジオを読んでみよう！

みなさんは、電車や新幹線にはよく乗りますか？列車を走らせる際に一番大切なことは、「お客さまを安全に運ぶこと」です。
そのために鉄道会社の「JR西日本」では、事故防止に向けてさまざまな安全対策に取り組んでいます。
そのひとつが、線路への転落事故の防止です。
例えば、ホームにはロープや「ホームドア」と呼ばれる柵を取り付けたり、
ホームのベンチの向きが線路に向かわないようにしたり、いろいろな方法で線路への転落を防いでいます。
また万が一、線路に人が落ちてしまった時のために、センサーが転落を検知し
自動的に運転士に知らせる「ホーム安全スクリーン」という、システムを開発し、今、導入に向けて準備を進めています。
みなさんも、列車に乗る際には、人々が安心安全に利用できるようにどんな工夫がされているのか、少し目を向けてみませんか？
新しい発見がいっぱいありますよ。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

画像参照：ホーム柵の写真（JR西日本プレスリリースより）

鉄道会社において何よりも大切な使命は、「お客さまを安全に運ぶこと」です。そこで、JR西日本では、事故防止に向けたさまざまな安全対策に取り組んでいます。そのひとつが、「線路への転落事故の防止」です。ホームからお客さまが落ちることのないように、列車が到着した時だけ開く「可動式ホーム柵」の設置を進めています。また、大阪駅など、扉の位置が異なる列車が同じホームに停車する駅の場合、「可動式ホーム柵」では対応が難しいため、支柱の間にロープを張り、それを上下に昇降させる方式の「昇降式ホーム柵」を設置しています。



画像参照：ホーム安全スクリーンの概要（JR西日本公式HPより）

さらにJR西日本は、万が一お客さまがホームから線路に転落した場合に備え、列車との接触を未然に防止するシステム「ホーム安全スクリーン（正式名称：転落時列車抑止システム）」を開発しました。これは、ホームの屋根に設置されたセンサーが「物体」を検知して、それが「転落したお客さま」だと判定した場合に、自動的に警報装置が作動して運転士や駅係員へ知らせるシステムです。すでにいくつかの駅で使われていて、2027年度末時点で84駅245番線で使用することを目標に設置を進めています。

キーワード

JR西日本

正式には「西日本旅客鉄道株式会社」といいます。山陽新幹線や北陸新幹線を含め、近畿地方、中国地方、北陸地方、九州地方において鉄道を運行するほか、コンビニエンスストア、ショッピングセンターやホテルなどさまざまな分野で事業を展開しています。

大阪駅

1日に約35万人が利用する、JR西日本で最も乗降客数の多い駅です。2023年に、「うめきたエリア」に開業した「大阪駅（うめきたエリア）地下ホーム」も大阪駅の一部です。

警報装置

ホームから人が転落したり、線路上に障害物が発生したりした際に、運転士や駅係員に対して非常事態を知らせる装置のことです。

対象ゴール

みなさんにできること！

鉄道を安全に運行するために、どのような方法があるか考えてみましょう。

おさらい

- 鉄道会社で一番大切な使命は「お客さまを安全に運ぶこと」。
- JR西日本では、乗客の線路への転落を防ぐために、ホーム柵の設置を進めている。
- JR西日本は、線路に人が転落したことを自動で検知するシステム「ホーム安全スクリーン」を開発した。

メモ

SDGs ラジオ